



かがやけ憲法 キャラバンニュース

憲法キャラバン北海道・網の目コースがスタート

かがやけ憲法キャラバンの北海道・網の目コースが10月16日スタートしました。(以下ニュース参照)。本コースもいよいよ29日から始まります。全労連事務局内には、キャラバン用の黄色のスタッフジャンパーが配られ、それを着て仕事をする人も…。チラシ、横断幕などのグッズの準備もバッチリです。みなさんの力で大きく成功させていきましょう！

●北海道・東北・関東越コース

北海道 10月29日(火)8時～8時45分 道庁北門前宣伝
18時10～ 集会・デモ(大通り西6丁目集合)

●九州・近畿コース

鹿児島 10月29日(火)7時40分～ 県庁前宣伝
18時～ かがやけ憲法！キャラバン鹿児島集会

●中国・四国・東海・関東コース

山口 10月29日(火) 下関市シーモール街宣伝
宇部市、山口市で宣伝
山口市 憲法学習会

●沖縄コース

那覇 10月29日(火)8時～ キャラバン出発集会
宜野湾市、名護市懇談
16時30分～ JA宣伝

北海道発 「憲法変えるな」「再稼働反対」

◆◆◆対話と共同広げる「憲法キャラバンスタート」◆◆◆

いよいよ「輝け憲法！全国縦断キャラバン2013」がスタートしました。道労連は10月16日から17日、後志(しりべし)コースをまわり、台風26号による悪天候のなか蘭越(らんこし)町、ニセコ町、倶知安(くっちゃん)町、共和町、岩内町、泊村、仁木町、余市町、小樽市の9自治体を訪問。憲法を守り、いかす立場での懇談と、議会には「特定秘密の保護に関する法律」を制定しないことを求める意見書の決議を要請しました。

蘭越町では、宮谷内留雄町長と1時間にわたって懇談。高齢者への除雪助成、子どものワクチン接種無料化、福祉灯油の拡充、種苗センターの設置、直営の温泉施設運営、高校生の2級ヘルパー受講費用負担、介護施設や患者の搬送など、「みんなの幸せづくり」のために蘭越町独自で様々な施策を行っていることがわかりました。「平成の大合併」と言われる市町村合併がすすんだ時も「住民が決めるべき」との姿勢を貫き、必要性や問題点をできるだけくわしく伝えながら議論すすめてきたことは、後に「討論デモクラシー」と評され、いまま蘭越町の基

本理念となっています。町長が2カ月に1回、住民の声を聞く「ふれあい電話」もつづけるなど、「対話」することを何よりも大切にしていました。

人口減と厳しい財政事情の中で、一度制度をなくしてしまえば復活することは難しくなるため、「枝は払っても幹は残そう」と地域ぐるみで知恵を出し合ってきた経験は、労働組合でも学ぶべき点です。

ニセコ町では、泊原発からおよそ29.5kmの地点にある役場で懇談。公営住宅の普及率を高めるなど住環境の整備など、人口を減らさないための施策に取り組んでいました。農業をやりたいと町へやってくる若者もいますが、なかなか定着することができないことや、農業の担い手不足は深刻で、農繁期は外国人研修生150人ほどに手伝ってもらいながらしのいでいることがわかりました。

泊村では、山本昇教育長、結城博総務部長、木村充夫議会事務局長と懇談。中学校卒業者の半数は、都市部などへ出て行ってしまいうなど、40年で人口は3,400人から1,830人に減少しています。29トン以上の船はかつて20隻以上あったが、今は1隻もなく、その背景に後継者問題、燃油の高騰、イカ、鮭の不漁など、漁業をとりまく大変な状況を聞きしました。また、海水温が上昇したため温度に敏感なバフンウニはまったく取れなくなり、栽培漁業でも北紫ウニだけになっていることもわかりました。

仁木町では、佐藤聖一郎町長と懇談。町の基幹産業である農業は、「質をどう高めるかが課題だ」と強調。生活の安定のために野菜栽培に転換する人も出ており、「このままでは果樹の町から野菜の町になってしまいかねない」事態を憂慮。若い人がやっていけるだけ収入をどう確保するか、冬でも農業ができるようにするためにできることなど、「何でも国に期待するのではなく、自治体としての力をつけていきたい」と話していました。また、原発の問題では「再稼働には反対」と明言。周囲には様々な声があるとしつつも、「住民のためにも正しいことは、正しいというべき」との信念には共感できます。

余市町では、嶋保町長と懇談。嶋町長は、戦争は絶対すべきでないし、子どもを戦場に送り出してはならないとの態度を明確にしたうえで、「憲法論議をすることは否定しないが、まずは憲法96条から変えてしまおうというやり方には反対です」と答えました。待機児童の問題では、「保育所は3カ所を1つに統合した。地方には子どもがいない。都市部の考えを押しつけるだけでなく、地域の実情をもっと反映させてほしい」と話していました。

政府は、統計上の数字を使って「アベノミクス」の効果を強調していますが、訪問したすべての自治体で「アベノミクス？地方には関係ない」「そもそも都市部だけの政策でしょ」など、まったく効果を実感していないことや、「東京の論理」を押しつける手法への批判的な声が聞かれました。

かがやけ憲法キャラバンの成功と500万署名達成を

職場・地域から「憲法を守り、生かそう」の 大きな世論を巻き起こそう！

「かがやけ憲法」国会請願署名のスタート集会在、10月16日に全国教育文化会館で開催されました。台風が伊豆大島などに大きな被害を与えるという大変な日でしたが、40人が参加し、憲法の戦後最大の危機的状況を打開するためにも、かがやけ憲法署名を成功させようと意思統一しました。

集会では、冒頭、大黒議長が主催者あいさつ。「様々な悪政をすすめる安倍政権の下で、憲法を守りいかす署名は重要な意義を持っている」と述べ、「安倍首相は内閣法制局長官をすげかえ、96条を変え、集団的自衛権の解釈変更を行い、そして自分の任期中に憲法9条を改悪しようとしている。だから、『かがやけ憲法！全国縦断キャラバン』と『かがやけ憲法署名』のとりくみを成功させることが大切。いつも署名を持ち歩き、対話し、多

くの国民から署名を集めよう」と語りました。

次に、日本共産党参議院議員の仁比聡平参議院議員が国会情勢報告を行いました。仁比氏は、「議員バッチを付けて、再びこの会館に来られて感激」と、参議院選挙を振り返り、『「憲法を変えてはならない、生かそう』と国民が憲法を深く考えた選挙だった」と語り、「5月の橋本大阪市長の慰安婦問題発言など、橋本氏や安倍首相の歴史認識のゆがみに対する国民の怒りを感じた」と語りました。そして、「ともに憲法改悪を許さないたたかいを強めよう」と呼びかけました。

◎「集団的自衛権容認を許さない」とのテーマで学習講演◎

学習講演会では、憲法会議代表幹事の川村俊夫氏が「集団的自衛権容認を許さない」とのテーマで講演しました。

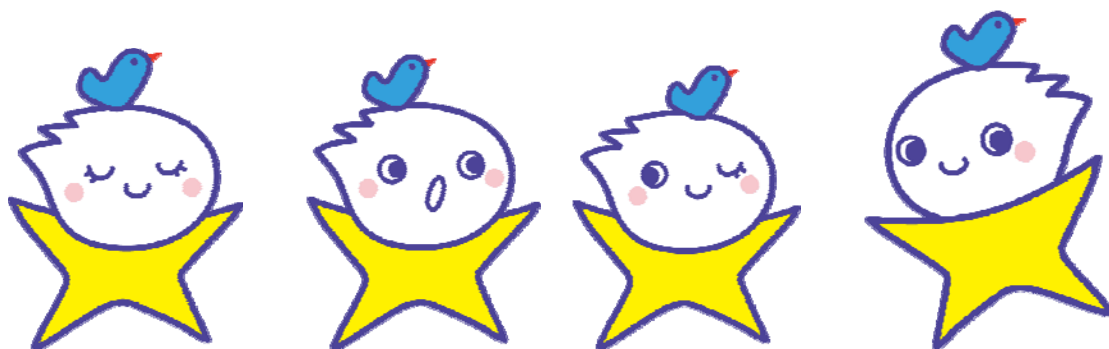
「安倍首相は『憲法改正に向けて頑張っていく。これが私の歴史的使命』と改憲への執念を燃やしている」と語り始め、自民党「日本国憲法改正草案」をつらぬく「時代逆行ぶり」として、前文の改悪をはじめ、天皇の元首化、国防軍の設置など具体的な問題点を指摘し、その危険性を語りました。

集団的自衛権行使について、国連憲章の原案にはなかったものを「ラテン・アメリカの危機」とアメリカが煽り、提案し、取り入れられた歴史的経過を紹介。自民党の「国家安全保障基本法案」の問題点を指摘。現行の自衛隊法では「我が国を防衛することが主たる任務」としているのに対して「基本法案」では「国際社会の平和と安定」としていることを指摘。さらに、「なぜいま改憲の動きか」と財界とアメリカの改憲のねらいを語りました。野中広務氏と「改憲を許さず憲法が生きる社会を」と対談したことを紹介し、「保守勢力やアジア諸国にも改憲に対する不安が広がっており、『九条の会』と民主勢力が車の両輪のように改憲を許さない憲法闘争を広げよう」と語りました。

次に、盛本全労連常任幹事が「憲法署名と憲法キャラバン推進の提起」を行い、4組織が決意表明。高橋全労連副議長が「今日の集会をスタートに、3年間で500万筆をめざして、かがやけ憲法署名にとりくもう。そして『かがやけ憲法！全国縦断キャラバン』を成功させよう」と、閉会あいさつを行いました。

☆☆☆地方組織へのお願い☆☆☆

宣伝カーの道路使用許可証が必要な地方組織は、担当の中山常任幹事まで連絡をお願いします。必要な書類をお送りします。なお、北海道、青森、岩手、秋田、山形、茨城、石川、和歌山、岡山、長崎からは、すでにご連絡いただいています。



全国縦断キャラバン2013